

山川むねひと 自己紹介文

いいね、金武町。あなたの声と共にチャレンジする男。山川むねひとです。

かつて私は、自分のやりたいというわがままだけで新しい仕事にチャレンジし、失敗して家族と支えてくれる人に迷惑をかける経営者でした。人の話をきかない、自分中心で周りへの感謝ができていませんでした。いま私は、社会福祉士であり保育園の副園長です。その仕事は、傾聴。あなたの声を聴くことです。

支えてくれる人の声を聴けるようになって、みんなと共に前に進めています。

あなたの声、とどきます。

いいね、金武町。あなたの声と共にチャレンジする男。山川むねひとです。

(255 文字)

自己紹介文ができるまでの全文

私は、23 歳の時からアメリカン BAR を経営し、それからキャバクラから保育園等、今までに 15 事業を全て金武町のみで開業し、チャレンジしてきました。その間 4 回の廃業をし、失敗を経験しています。

共通して失敗する時は、「自分一人で考え、自分一人で決定し、行動している時です。」その時々には必ず、家族、スタッフ、友達のアドバイスや忠告があるのに、私自身の独りよがりの自信を勘違いして、その人たちの話を聴いていませんでした。

そんな失敗を続けている中での妻との会話で気づきました。

「家族のため、スタッフの生活のため、もっと稼いで生活を良くしていこう。」「おれは、やると決めたらやる。」そんなスタンスで夢を語る場面での時でした。妻が言いました。「ひーとー。一人で走って、なんね〜。後ろを見てごらん。私だけだよ、ついてきているのは。」「大変だよ〜、私一人なのは。支えきれなくなるかもよ。そろそろ気づかんと〜。旦那だからついてきてるからね〜。チャレンジする行動には尊敬しているだけ、限界来たら知らんよ〜」と真剣な顔で言われました。

私は、離婚を突き付けられる怖さや妻にあきれられる怖さを感じ、自分とよく話をすることになりました。「支えてくれる人がいるから時間がつくれる。支えてくれる人がいるから振り返ることができる。支えてくれる人がいるから前に進める。一人では何も成し遂げられない、支えてくれる人がいるからできる。」と気づかされました。

経営全般がうまくいかず危機が迫っている時期がありました。私は、いままでの事業を振り返り、お金だけではないんじゃないか？これまでの時間の使い方はどうだったのか？と自分と話し、「何のために仕事をしてきた？何のために生きている？」を考え続けました。その自分との時間の中で、やりたい仕事は、「教育だ」と気づきました。そ

れから保育園事業をやりたいと、家族としっかり話をしました。そうです、家族が住む自宅を保育園にする計画なので家族の生活環境が変わってしまうからです。父・妻・子どもと本当に話を聴き、その問題点、起こる環境の変化、夢、将来の展望を話し合い、今の金武こどもみらい園があります。そして、社会福祉士にチャレンジし取得しました。今は金武こどもみらい園で働く保育士の先生、スタッフの話を聴き、やりたい事を全員一緒にチャレンジをして、子どもたちの笑顔であふれる保育園になっています。

今では、保育園事業や観光協会を通して、リーダーとして支えてくれる人の話を聴き、しっかりと向き合いチャレンジしていく。適材適所それぞれの役割を伸ばしつつ、みんなと共に進みそして引っぱっていけるリーダーを目指しています。

今はハッキリと解ります。私もあなたも、私たちは、今の状況よりも良くしようと真剣に考えています。私は、その声を私の想いと共に前に進みたい。私たちは、私たちひとりひとりが主役になれる町をつくれます。一緒にやらせてください。私たちの「いいね、金武町。」作りを。よろしくお願いします。(1202 文字)